

光を記録しようとして探究した写真の黎明期を検証し、写真古典技法として3種類のプリント技法を体験します。

○サイアノタイプ (Cyanotype Printing Process)

ペルシアンブルーのような美しい青色に発色することからサイアノタイプと名付けられました。日本では一般的に青写真、日光写真とも呼ばれています。

クエン酸鉄アンモニウムと赤血塩を主成分に感光液が構成されています。比較的感光性が低く長時間の露光が必要です。

○ヴァンダイクブラウン (Van Dyke Brown Printing Process)

画家アンソニーヴァンダイクが愛した濃褐色に発色することから「ヴァンダイクブラウンプリント」と名付けられた技法です。濃い茶色の画像が生成されます。

硝酸銀とクエン酸鉄アンモニウムを主成分に感光液が構成されています。

○ソルテッドペーパー (Salted Paper Printing Process)

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットにより1841年に発明されたカロタイプのポジ画像を生成する印画紙として用いられ1844年には発刊された世界ではじめての写真集「自然の鉛筆」に使用された技法です。

1日目 写真の歴史講義およびデジタルネガ製作、サイアノタイプ制作

2日目 デジタルネガ制作、ヴァンダイクブラウン制作

3日目 デジタルネガ制作、ソルテッドペーパー制作、プレゼンテーション講評

【持参物】

- ・各々が撮影したデジタルデータ 40点以上
 - ・プリント制作用 B3水張りケント紙10枚程度(マツダ画材で扱っているケント紙の相性が良好です)(百均などで売っている蛍光漂白剤の入った真っ白な画用紙は発色しない場合があります)大きさは上記のB3水張りケント紙を4分割して使うのがちょうど良いサイズになります。
 - ・デジタルネガ用フィルム(インクジェット用)指定
「TRS100N-LTR/20[ピクトリコプロ・デジタルネガフィルム TPS100 216×279mm20枚入り]」ピクトリコ社製(最もデジタルネガに適している製品)
 - *アマゾン・ヨドバシなど通販で購入可
- その他、多くのOHPフィルムが発売されていますがネガの最大濃度が出ない場合があります。216×279mmを二分割にして使用します。
- ・タオル、エプロン、使い捨てゴム手袋(敏感肌には必須)
 - ・上履き(濡れても滑りにくいもの)
 - ・衣服に薬品等が着き汚染しても支障のない服装
 - ・文房具

① フォトグラム(1日目)

「フォトグラムとは感光性のある印画紙の上に様々なオブジェクトを乗せて光を照射する事で陰影を描く技法です。レイヨグラム、フォトデッサンとも呼ばれます」

持参物

- ・指定白黒印画紙一多階調タイプ 8×10 インチ RC ペーパー
「イルフォード ILFORD MGRCDL 1MG 8×10 25 [RC 印画紙 MULTIGRADE RC DELUXE GLOSSY] (光沢) 8×10 インチ 25 枚入」 光沢
「イルフォード ILFORD MGRCDL 44MP 8×10 25 [RC 印画紙 MULTIGRADE RC DELUXE PEARL] (半光沢) 8×10 インチ 25 枚入」 半光沢
- 上記のうちいずれかを選択 事前にヨドバシカメラやビックカメラなどの通販を利用して事前に準備してください。尚、感光性があるので開封しないこと！(注意)
- ・モチーフ、オブジェクト 印画紙上に配置できる小物(平面、立体、透明、半透明、ビー玉、ガラス細工、切り絵、レース素材など)光の透過率の違うものがあるとトーンバリエーションが広がります。形の面白いものなど、10~20 個以上
- ・タオル、エプロン、使い捨てゴム手袋(敏感肌には必須)
- ・上履き(濡れても滑りにくいもの)
- ・文房具

② コラージュ(2日目)

「コラージュとは写真やイラストを切り貼りして1つの世界感を表現するアート技法の一つです。DADA、シュールレアリズムの時代に多用されフォトモンタージュとも呼ばれます」

持参物

- ・ケント紙 B2 サイズ 2 枚 (学内マツダ画材で購入可)
- ・写真プリント、雑誌、新聞など (B2 サイズ 2 枚が十分カバーできる量を要するので多めに持参すること)

基本的にどんな種類の写真でもよい。広告など自分で撮影したもの以外でも可。

コラージュ制作につき、切り取りや彩色など行うため原版を保存しておきたい場合はコピーが望ましい。サイズは自由。

- ・色鉛筆、マーカー、絵の具など
- ・その他、切り貼りに必要と思われる道具や材料。
(カッターナイフ、定規、はさみ、のり、両面テープ、ドローイングする場合は画材など)

③ 作品研究(3日目)

・写真集1冊 自身が一番好きな写真集であればジャンルは問いません。
特に芸術性が高いものや著名な作家のものである必要性はありません。
例えばドキュメンタリー作品やアイドルの写真集でもよい。

フォトアート I-2

森川先生

授業スケジュール

1日目

午前 講義(露出、構図、被写界深度)

午後 撮影実習

2日目

午前 撮影実習

午後 撮影データ処理、プリント出力

3日目

終日スナップ撮影(ロケーション未定)

持参物

- ・デジタルカメラ、自身で常用するレンズ、重装備は不要です。
- ・記録メディア 16GB以上
- ・エプソンインクジェット用写真用紙 光沢 A4 20枚程度(2日目のみ)
- ・文房具
- ・交通費、施設入場料(1,500円程度)

屋外撮影時のため、夏季は帽子等暑さ、冬季は防寒具等寒さ対策をしてください。
また慣れた歩きやすい靴等、行動しやすい服装で受講してください。

※「-1」「-2」共通

忘れ物があるとスクーリングは受講できませんので持参物をしっかり確認し
準備してスクーリングに出席してください。

写真基礎実習 I

担当：玉城敦章 先生

写真基礎実習 I-1

●概要

写真を用いた作品制作を行う上で必要な撮影技術と表現技術を実際の撮影から、画像編集、プリント、講評を通じて学びます。

●準備物

- ・デジタルカメラ（一眼レフまたはミラーレス、バッテリー、記録カード、説明書）
- ・標準ズームレンズ（またはそれをカバーする単焦点レンズ）
- ・写真用プリント用紙（2L サイズ・光沢または半光沢）20 枚程度
- ・データ保存用の HDD または SSD（編集した画像データを持ち帰るために必要）
- ・筆記用具、上履き
- ・白 T シャツ（3 日目に使用します。化繊 100%は避けてください）
- ・T シャツにプリントしたい写真作品データ
- ・第一課題作品

●スクーリングの予定

1 日目・・・写真撮影の基礎

1. 講義：撮影基礎（カメラの設定と露出について）
2. 学内撮影(マニュアルモードで撮る)
3. デジタルデータの保存・閲覧・補正・プリントアウト

2 日目・・・シャッタースピードとレンズの効果を意識した撮影

1. 講義：シャッタースピードと絞りの効果
2. 学内撮影(シャッタースピード速・遅／絞りを開・絞)
3. RAW 現像とプリントアウト
4. 作品講評

3 日目・・・写真を紙以外に出力する

1. 講義：写真の出力について
2. 写真を T シャツにする
3. 作品講評
4. 第一課題の検討

担当：玉城敦章 先生

写真基礎実習 I-2

●概要

写真基礎実習 I-1 で行った基礎撮影技術を踏まえ、複数の写真を組み合わせた表現を行うための技術を、学外での撮影実習を通じて学びます。

●準備物

- ・デジタルカメラ（一眼レフまたはミラーレス、バッテリー、記録カード、説明書）
- ・標準ズームレンズ（またはそれをカバーする単焦点レンズ）
- ・写真用プリント用紙（2L サイズ・光沢または半光沢）20 枚程度
- ・データ保存用の HDD または SSD（編集した画像データを持ち帰るために必要）
- ・筆記用具、上履き

●スクーリングの予定

1 日目・・・組み写真の考え方

1. 講義：写真によるストーリーづくり
2. 学内撮影（異なる画角や構図で組み写真をつくる）
3. デジタル画像編集とプリントアウト

2 日目・・・学外撮影

1. 学外撮影

学外に撮影地を設定し終日撮影を行います。

撮影地は初日に説明し、現地集合現地解散となります。

3 日目・・・作品の仕上げ

1. 講義：写真のセレクトと編集について
2. デジタル画像編集（Photoshop を利用した応用編集）
3. プリントアウト（写真光沢紙に加え、和紙へのプリントで質感の変化を学ぶ）
4. 作品講評

スチール撮影 I

テクニカルフォト I (静止画)

林先生クラス

授業の目的及びテーマ

写真は映像のメディアの核であり、視覚芸術の先端を担うメディアです。今後も益々多様化する写真表現を見据え、基本的な技術と理論を学び、総合的な技術力を身につけると共に、多方面から写真を読み語る力を養い、芸術全般に対する造詣を深めることを目的とします。

授業概要

写真表現技法を大局的に捉え、撮影からプリント出力までの制作を繰り返し行い、思考と行動の結果としての作品制作力を養いながら基礎技術力（制作力）を身に付けて行きます。

授業計画

- 第 1 回：機材操作と写真についての基礎知識
- 第 2 回：撮影技術の向上
- 第 3 回：撮影実習
- 第 4 回：表現の拡張
- 第 5 回：画像編集 1 RAW 現象
- 第 6 回：画像編集 2 編集技術
- 第 7 回：プリント出力
- 第 8 回：意志の投影
- 第 9 回：撮影表現力 1 光の見極め
- 第 10 回：撮影表現力 2 構図と視線誘導
- 第 11 回：写真の多様性 ギャラリークルーズ
- 第 12 回：テーマ制作 1 撮影と思考
- 第 13 回：構成とステートメント
- 第 14 回：テーマ制作 2 主観と客観
- 第 15 回：プレゼンテーション

評価方法 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。

- 1 日目・・・学内撮影（機材操作と撮影）
- 2 日目・・・撮影基礎と拡張性（各種機能を適材適所で使用する）
- 3 日目・・・セレクト、RAW 現象

- 4 日目・・・学内撮影（機材操作と撮影）
- 5 日目・・・ギャラリークルーズ（他者の作品から学ぶ）
- 6 日目・・・セレクト、RAW 現象、プリント

〈スクーリングに必要な用品〉

1. デジタル一眼レフ（バッテリーはフル充電）・標準系、広角系、望遠系等のレンズ
2. 使用するカメラに合う記録メディア（16 GB以上の空き容量）・カードリーダー
3. カメラ使用説明書
4. エプソン写真用紙 A4サイズ 20枚入り 1袋（光沢、もしくは絹目調）
5. ノート・筆記用具・A4クリアファイル（作品プリント保管用）
6. データ保存媒体 1TB 以上
ポータブルハードディスク（HDD）、またはポータブルソリッドステイトドライブ（SSD）※1
7. 今までに撮った写真のデータ 200枚以上（出来るだけ多く）
8. 上履き

※1ハードディスクを新しく購入された場合、初期化は大学にて行います。ご自宅のパソコンがウィンドウズの場合、ウィンドウズ環境そのまま初期化をすると授業で使用するマッキントッシュで使用できないことがあるからです。また、既にウィンドウズ環境でお使いの場合も同じ理由で問題が生じる場合があります。可能であれば、データを一度パソコンか別の媒体に移動した上でお持ちいただくか、新しいものを購入してください。

ムービー撮影 I-1
テクニカルフォト I-1(動画)

○ムービーの撮影から編集までを行う

- 1日目 午前 ガイダンス・ムービー撮影の手引き(座学)
午後 タイムラプス制作(実習)・ムービー撮影の実践1(実習)
- 2日目 午前 ムービー撮影の手引き(実習)
午後 ムービー編集1(実習)
- 3日目 午前 ムービー撮影実践2(実習)・ドローン撮影の実演(実習)
午後 撮影方法とアイテムの使用(実習)・課題説明

ムービー撮影 I-2
テクニカルフォト I-2(動画)

○動画作品の制作を行う

- 1日目 午前 ガイダンス
午後 動画作品の解剖(座学)
- 2日目 午前 企画作成の実践(ディスカッション)
午後 ムービー撮影実践の3(実習)
- 3日目 午前 ムービー編集2(実習)
午後 プレゼンテーション

○各項共通持参物

- ・各自所有の動画が撮れるカメラ及びレンズ(カメラの取扱説明書も)
- ・動きやすい服装
- ・ミニピンやイヤホンまたはヘッドホン(Bluetooth)でも可
- ・バッテリー及び、その予備(事前に充電しておくこと)、充電器など
- ・メモリーカード(事前にデータを空にしておくこと)
- ・メモリーカードリーダー又は、データをPCに転送するためのUSBケーブル
- ・USB3.0のポータブルSSD(500GB以上が望ましい)
※USB-CやThunderboltであればなお良し
- ・筆記用具(鉛筆、消しゴム、色鉛筆など)
- ・ノートPC(所持者のみ)、その電源
- ・ノートPC持参者は最新のDaVinci Resolve(無償版)を入れておく
- ・Gmailアドレス(アカウント)

フォトアートⅡ

秋山先生

【授業概要】

大阪市内2カ所(キタ・ミナミ)でロケを行い、撮影した写真を編集してポートフォリオブックを作成します。フォトアートⅡ-1では<撮影計画><撮影><写真のセレクト>を主に、Ⅱ-2では<編集><ブック作成><プレゼン>を主に実習を行います。また全体をとおして、作品制作において欠かすことのできない「テーマ」や「タイトル」の決め方や「ステートメント」の作成について学びます。

個々の「ものの見方」や「感じ方」、「興味」や「関心」への「気づき」を大切にしながら、実習に取り組んでください。

【スケジュール】

フォトアートⅡ-1

1日目 大学

- ・オリエンテーション
- ・事前作品の発表、作品研究 ※持参物を参照してください
- ・「街」に関する参考作品を鑑賞
- ・ロケ計画書の作成(Ⅱ-1 キタ)

2日目 ロケ

- ・大阪市北区 大阪駅・梅田駅周辺(キタ)で撮影
- ・現地集合、現地解散
- ・JPEG300枚以上撮影

ロケ当日は歩きやすい服装、靴でお越しください。

3日目 大学

- ・前日ロケで撮影した写真のセレクト(PC)
- ・2Lに印刷(50枚程度)
- ・プレゼンテーション、作品研究
- ・ロケ計画書の作成(Ⅱ-2 ミナミ)

フォトアートⅡ

秋山先生

フォトアートⅡ-2

1日目 ロケ

- ・大阪市中央区・浪速区 難波駅・心斎橋駅周辺(ミナミ)で撮影
- ・現地集合、現地解散
- ・JPEG300枚以上撮影

ロケ当日は歩きやすい服装、靴でお越しください。

2日目 大学

- ・前日ロケで撮影した写真のセレクト(PC)
- ・2Lに印刷(50枚程度)
- ・印刷した写真をセレクト。分類
- ・プレゼンテーション、作品研究

3日目 大学

- ・キタ、ミナミのロケで撮影した写真(印刷済み、2L、100枚程度)から、さらに20枚程度をセレクト
→A4写真用紙に印刷
- ・ポートフォリオブックの作成
- ・プレゼンテーション、作品研究

【持参物】

撮影機材

- デジタル一眼レフカメラ(本体・レンズ) 一式
 - ※カメラのメーカー、機種は問いません
 - ※レンズはズームレンズ、単焦点のどちらでも可
 - ※ミラーレス一眼や大型センサーを搭載したコンパクトカメラでも可

- 記録メディア(SD、CF カードなど)
 - ※1000 万画素で、1 日 300 枚以上撮影できる容量 8G 以上を推奨

- 予備バッテリー、充電器(必要に応じて)

※ 所有機材等について、事前アンケートを提出してください。希望者には機材の貸し出しを行います。

ポートフォリオブックの材料

- A4 クリアブック 1 冊(固定式タイプ、12 ポケット)
 - ※文具売り場やカメラ量販店等にある、数百円から千円くらいで購入できるもの。
 - ※ポケットの透明度が高いものが好ましい。装飾がなく、シンプルなものをおすすめします。

- 2L インクジェット用紙 100 枚

- A4 インクジェット用紙 20 枚
 - ※写真の印刷に適したもの
 - ※光沢もしくは半光沢(絹目調・微光沢も可)
 - ※染料・顔料対応
 - ※メーカー不問

クリアブック、インクジェット用紙はロケ当日に購入していただいても構いません。梅田の大型量販店、心斎橋の文具・画材店等をご案内します。

事前作品(Ⅱ-1 初日に持参してください)

- ※テーマ、モチーフは自由
- ※サイズは 2L/キャビネ～A4
- ※10～20 枚程度
- ※銀塩/デジタル出力どちらでも可

第1・第2 課題がお手元に返却されている方は、事前作品として持参していただいても構いません。

その他

- 白手袋
- 筆記用具
- USB メモリー(8G 以上を推奨)
- 大阪市内の地図、ガイドブック(WEB も可)
- ロケ当日の交通費、昼食代等

写真基礎実習 II

担当：平松佑介

写真基礎実習 II-1

●概要

写真表現において重要となる光を読む技術を、スタジオライティングを通して考えます。
光の質を位置・強弱・質に分けて、テスト撮影を

●準備物

- ・撮影のモチーフ
- ・デジタルカメラ（一眼レフまたはミラーレス）
- ・標準ズームレンズ（持っていれば 70～200 程度の望遠レンズか中望遠マクロレンズ）
- ・記録メディア、バッテリー、カメラの説明書
- ・筆記用具、上履き（スタジオで動きやすい上履き）
- ・ストレージ（データを持ち帰るための HDD または SSD）

●スクーリングの予定

1 日目・・・ライティング基礎

1. スタジオ施設と機材の説明
2. ライティングの基礎（ライティングポジション・光質・照明比）

2 日目・・・ライティングの実践（白い紙の撮影）

1. 白い紙をモチーフとした撮影
2. 作品講評

3 日目・・・ライティングの実践（それぞれのモチーフ）

1. それぞれが持参したモチーフの撮影
2. 作品講評

●撮影のモチーフについて

3 日目に撮影するモチーフ（被写体）を作品 3～5 点分準備してください。

スタジオ内でライティングして撮影しますので、作品の具体的な完成像をイメージしてモチーフを選んでください。またメインの被写体と合わせて必要なら背景も持参してください（布や紙など）単色の背景は大学で用意可能です。背景の大きさは標準レンズ程度で被写体を撮影したい際に必要な大きさを考えてください。

写真基礎実習 II-2

●概要

モノクロフィルムの現像とプリント作業を通じて、写真の原理を学ぶとともに、色彩を省いた表現から光が作品に与える影響について考える。

●準備物

- ・撮影済みのモノクロフィルム 2～4 本程度（同一の銘柄で揃えてください）
参考）富士フィルム ACROS100 II、Kodak 400TX、Kodak 100T-MAX・400T-MAX
ILFORD HP5、ILFORD FP4、ILFORD DELTA100・400、
OLIENTAL Seagull 100・400
- ・モノクロ RC 印画紙 光沢・四つ切り（10×12 インチ）30～40 枚程度
参考）OLIENTAL 光沢多階調印画紙 イーグル VCRP-F
ILFORD 印画紙 MGRCDL 1MG 9.5×12 インチ
- ・筆記用具、エプロン、タオル、上履き

●スクーリングの予定

- 1 日目・・・暗室作業についての講義、フィルム現像
- 2 日目・・・コンタクトプリントと引き伸ばし
- 3 日目・・・引き伸ばし、作品講評

●モノクロフィルムでの事前撮影について

授業で現像するフィルムをスクーリング受講までに撮影しておいてください。撮影の内容は自由ですが、色彩のないモノクロ表現を行いますので、色で撮影するのではなく、陰影や対象の形状、質感などに注目して撮影を行ってください。（撮影時の天候や時間帯による光の状況を見極めることが重要です）

撮影を行うモノクロフィルムは、特別な理由がない限り同じ銘柄のフィルムに揃えてください。

フィルムカメラを所持していない方は、写真基礎実習 2-1 の授業時にカメラの貸し出しを行いますので、申し出てください。

スチール撮影Ⅱ

テクニカルフォトⅡ(静止画)

林先生クラス

授業の目的及びテーマ

絵画や版画などと同じ平面芸術として括られる写真ですが、いくつかの性格により、他とは似て非なるものとされる場合があります。複製可能であることもひとつですが、サイズ可変という一面も、他と一線を画す要因のひとつと言え、ユニークな表現形態と言えるでしょう。サイズの違いによる変化とそれぞれの表現効果について理解し、写真の表現力を高めます。また、表現形態の違いが及ぼす表現力の違いは、作品の命にも繋がります。作品展示などアウトプットのバリエーションを学び、自身の作品表現の幅を広げます。

授業概要

作品内容に応じたプリントを制作、またそのために必要な知識と技術を学びます。また、様々な展示物からその展示効果について学び、自身の作品に於ける最適な表出方法を探ります。

授業計画

- 第1回： サイズによる視覚効果の差異
- 第2回： サイズ可変に於ける基礎知識
- 第3回： 仕上がりを想定した撮影
- 第4回： セレクトによる再構築
- 第5回： 画像編集1 RAW 現像
- 第6回： 画像編集2 編集技術
- 第7回： プリント出力
- 第8回： 組写真の構成と表現方法
- 第9回： 様々な展示表現 ギャラリークルーズ
- 第10回： 写真集と Web 表現
- 第11回： 作品編集に向けたセレクト
- 第12回： 画像編集1 RAW 表現
- 第13回： 画像編集2 編集
- 第14回： 仕上げ
- 第15回： プレゼンテーション

- 1日目・・・撮影（仕上がりの想定）
- 2日目・・・セレクトと編集
- 3日目・・・プリント（様々なサイズの出力）

- 4日目・・・作品研究（Web と図書館を利用）
- 5日目・・・学外撮影・大阪市内（様々な展示表現と自身の制作）
- 6日目・・・セレクト、RAW 現像、プリント

2-1 2-2 共通

<スクーリングに必要な用品>

- 1. デジタル一眼レフ（バッテリーはフル充電）・標準系、広角系、望遠系等のレンズ
- 2. 使用するカメラに合う記録メディア（16GB 以上の空き容量）・カードリーダー
- 3. カメラ使用説明書
- 4. エプソン写真用紙 A3 サイズ 20 枚入り 1 袋（光沢、もしくは絹目調）
- 5. ノート・筆記用具・A3 クリアファイル（作品プリント保管用）
- 6. データ保存媒体 1TB 以上
ポータブルハードディスク（HDD）、
またはポータブルソリッドステイトドライブ（SSD） ※1
- 7. 今までに撮った写真のデータ 500 枚以上（出来るだけ多く）
- 8. 上履き

※1 ハードディスクを新しく購入された場合、初期化は大学にて行います。ご自宅のパソコンがウィンドウズの場合、ウィンドウズ環境でそのまま初期化をすると授業で使用するマッキントッシュで使用できないことがあるからです。また、既にウィンドウズ環境でお使いの場合も同じ理由で問題が生じる場合があります。可能であれば、データを一度パソコンか別の媒体に移動した上でお持ちいただくか、新しいものを購入してください。

ムービー撮影Ⅱ-1
テクニカルフォトⅡ-1(動画)

○屋外・屋内撮影での動画撮影や座学を行う

- 1日目 午前 ガイダンス・課題説明
午後 ムービー撮影1のおさらい(座学)
- 2日目 午前 映像の原理(座学・実習)
午後 インタビュー撮影の準備(座学・実習)
- 3日目 午前 インタビューの撮影(実習)
午後 インタビュー編集(座学)

ムービー撮影Ⅱ-2
テクニカルフォトⅡ-2(動画)

○ドキュメンタリー動画作品制作を行う

- 1日目 午前 ガイダンス
午後 動画作品の撮影(座学・実習)
- 2日目 午前 動画作品の撮影(実習)
午後 動画作品の編集(実習)・ドローン撮影の実演(実習)
- 3日目 午前 動画作品の編集(実習)
午後 プレゼンテーション

○各項共通持参物

- ・各自所有の動画が撮れるカメラ及びレンズ(カメラの取扱説明書も)
- ・動きやすい服装
- ・ミニピンまたはイヤホンまたはヘッドホン(カメラに挿せること確認)
- ・NDフィルター(2~4絞りダウン。可変式はおすすめしない)
- ・バッテリー及び、その予備(事前に充電しておくこと)、充電器など
- ・メモリーカード(事前にデータを空にしておくこと)
- ・メモリーカードリーダー又は、データをPCに転送するためのUSBケーブル
- ・USB3.0のポータブルSSD(500GB以上が望ましい)
※USB-CやThunderboltであればなお良し
- ・筆記用具(鉛筆、消しゴム、色鉛筆など)
- ・ノートPC(所持者のみ)、その電源
- ・ノートPC持参者は最新のDaVinci Resolve(無償版)を入れておく
- ・Gmailアドレス(アカウント)

水中の世界

赤木 正和先生
トニー・ウー先生

授業概要

このコースの目的は、カメラのシャッターボタンを押して写真を撮ることと、個人的ビジョンを表現する芸術作品を作るために機材を使うことの違いを理解することです。

持参物

- デジタルカメラ（一眼レフまたはミラーレス、レンズ、バッテリー、チャージャー、記録カード、カードリーダー、必要でしたら説明書）
- データ保存用の HDD または SSD（編集した画像データを持ち帰るために必要）
- お持ちでしたら、水中撮影機材（ハウジング、ポート、懐中電灯、ストロボなど）
- 被写体（撮影練習のために使う小物など）
- 自分が気に入っている写真、出版物（議論のため参考になる資料）

1日目

- 基本の技術と知識 (絞り、シャッター、ISO、エクスポージャー計算、ヒストグラム、ノイズなど)
- 光の理解
- 水中撮影と陸撮の違い

2日目

- アーティスティックビジョンの基本と理解
- フォーカス、色温度、色相、明度、彩度、補色、構成、トリミング、リーディングラインなどを実践する
- 水中撮影の特徴

3日目

- 各自でどんなイメージを作りたいかを決めて被写体やシーンを作り、それを説明してもらい、写真を創ることに挑戦する
- 作品講評

フォトアートⅢ

「フォトアートⅢ-1」

第1日

- a・オリエンテーション（成果物/アートブック作成にあたっての予備講義）
- b・受講生の事前作品のプレゼンテーション
作品の合評・作品研究を通じて、作者の制作意図などを発表する
(プリントの状態/サイズ: キヤビネ、2L判、あるいはそれに準ずるサイズ以上を30枚程度 ※デジタル出力プリントも可)
- c・撮影実習計画書1の作成および撮影実習（ロケハン）

第2日

- a・撮影実習 撮影実習計画書（ポートフォリオ作成）に基づいた個々の撮影を行う
撮影場所……………大阪芸術大学内及びその周辺
集合時間及び場所…………スクーリングに準ずる

第3日

- a・(パソコンによる) 写真の編集・修正 及び レイアウト、写真出力
- b・出力写真およびポートフォリオのプレゼンテーションを行う

「フォトアートⅢ-2」

第1日

- a・フォトアートⅢ-1で制作したポートフォリオについての批判的研究（検討、改善点の抽出）
- b・撮影実習計画書2（アートブック作製）の作成と撮影実習 および 写真の編集
撮影場所……………大阪芸術大学内及びその周辺
集合時間及び場所…………スクーリングに準ずる
(フォトアートⅢ-1の撮影実習計画書を再検討し、より明確な撮影実習計画書を作成する。)

第2日

- a・写真の編集・レイアウト
- b・アートブックの作成（レイアウト・作成）

第3日

- a・紙面の印刷とアートブックの作成
- b・作品成果物の発表、及び作品研究(講評、ディスカッション)

スクーリング時に必要な用品（フォトアートⅢ-1、Ⅲ-2 共通）

- ・撮影機材一式 カメラシステム（デジタルカメラ）

- ・使用感材 使用するデジタルカメラに準ずる記録メディア
 デジタル出力プリント用紙
 - ※ III-1 ではエプソンの写真用紙（光沢/絹目調のいずれか）A4サイズ 20枚入を1ケ使用します。
 - ※ III-2 での使用用紙は、III-1 の終了後に決定しますので事前のご準備は必要ありません。

- ・筆記用具、及び写真作品の整理、加工、編集のために必要な道具
 - ※はさみ、カッター、のり、両面テープ、定規（三角定規）、トリミングスケール（あれば）
- ・第1課題（返却済みの場合）

- ・事前作品（30作品/枚程度・銀塩プリント、デジタル出力のいずれも可・サイズは2L判かキャビネ判程度）

- ・フォトアートIII-2からの受講生はフォトアートIII-1の課題（第1課題（課題No.01）自由作品制作）

- ・交通費（※学外に出での撮影はありません）、その他写真制作に必要な実費

その他

撮影及び編集に関しては、カメラ以外は学校の施設を利用した作業になりますが、個人のノートパソコン等のデジタル機器を使用したい方は持参可能であれば使用できます。

テクニカルフォト(技術)-1

テクニカルフォトⅢ-1

森川先生

このテクニカルフォト-1、-2を通して写真の編集レタッチとレイアウトテクニックを学びます。

Adobe Illustrator または inDesign を用いて50～60ページのブックレット（小冊子）を作るための制作プロセスを検証します。

印刷サイズに合わせて画像解像度の調整から始まり、色調補正やトーンの調整など様々なレタッチを行い、束見本の制作から最終的に製本を行い、ブックレットを仕上げます。

1日目

- ・Photoshopによる色補正と各種レタッチ
- ・印刷に適したデータとは
- ・終日 Photoshopによる作業

2日目

- ・Illustratorによるペジエ曲線の扱い方
- ・デザイン構成を考える（タイポグラフィー）
- ・目的のあるデザイン思考（ピクトグラフィー、ロゴデザイン）
- ・DMの制作
- ・終日 Illustratorによる作業

3日目

- ・inDesignの取り扱い（ページレイアウト）
- ・複数ページを使ったレイアウト構成（メニューなど）
- ・終日 Photoshop、inDesign、Illustratorによる作業

持参物

- ・上記作業に使用する画像データ（100枚以上）RAWデータがあれば持参のこと（画像の内容は問わない）
- ・データバックアップ用デバイス（外付けHDDドライブ、USBフラッシュメモリ、SDカードなど）
- ・文房具

「Ⅲ-1で学んだレイアウト技術を用いてブックレット編集作業を行います。

1日目

- ・持参データのチェックおよび選別分類化
- ・ダミー制作
- ・終日 Photoshop による作業

2日目

- ・デザイン構成を考える
- ・出力、両面印刷
- ・束見本の制作
- ・終日 Photoshop、inDesign、Illustrator による作業

3日目

- ・最終出力
- ・製本作業（巻き込み製本、裁断）
- ・仕上げ

持参物

- ・制作進行中のテーマ、シリーズの撮影データ（200～300枚以上）RAWデータもあれば持参のこと、
- ・文章をたくさん盛り込むので予め文字データを用意しておくこと（Ⅲ-1で説明）
- ・両面インクジェット用紙（エプソン、両面スーパーファイン紙 マット A4 KA4100SFD 100枚入）指定
- ・コットン手袋
- ・データバックアップ用デバイス（外付けHDDドライブ、USBフラッシュメモリ、SDカードなど）
- ・文房具

水中撮影(技術・表現)
テクニカルフォトⅢ・Ⅳ

赤木先生クラス

○授業目的

水中撮影におけるベーシックな撮影手法を学び実際の撮影を通して作品の質を高める。
水中撮影に特化した撮影技術の習得に向けたデータ作成方法。
海洋実習での実際の撮影、撮影したデータの講評、加工方法のノウハウ。および編集方法の技術修得を目指します。

○受講要件

最低限、パディ潜水が可能なレベルのCカードを保有している事／指導団体問わず。最終ダイビングより3ヶ月以上ブランクがある場合はリフレッシュダイビングコースやブランクダイバーコースなどを受講したことをログブック等で提示できること。
ご自身の水中撮影できるカメラを保有していることが必要最低限となります。(コンデジ可)

○授業の流れ

Ⅲ・Ⅳ共通

1日目…白浜研修センターを利用したダイビングオリエンテーション(午前)
各自の撮影機材のチェック、ダイビング機材チェック、午後からポートダイビング。スキルチェックが中心。
2日目…午前午後とポートダイビングを行い水中撮影。
撮影テーマを決めて個別水中レッスン。
ログブックタイムには簡単な講評。
3日目…撮影したデータの整理、水中ならではのアナログ&デジタル加工の手法。

スクーリング持参と準備

※今までに制作していた水中撮影作品の持参(スチル&ムービーデータおよびプリント)
プリントサイズは問いません。写真データはJpegもしくはTiffデータで。

※普段使っている水中ハウジング、中身のカメラ、それに適応した各種メディア(CF, SDなど)。周辺機器として水中ストロボや水中ビデオライトも持参すること。

スクーリングでの撮影実習

※自作映像作品（水中以外）の過去作品も同様にお持ちください。
実際の撮影も行いますので、各種メディアにはご自身でご用意ください。（SD, CF カード）
制作した作品を持ち帰りたい場合、コンパクトハードディスクや SSD などコピーできるものも用意すること（コピーは任意）
※海洋実習実施時は、各自のダイビングツアーとは異なります。（ご自身のボートダイブフイーと交通費、宿泊費実費）
※ダイビング用品のレンタルを希望する場合、事前に写真学科合同研究室までサイズ等問い合わせをしてください。

赤木先生クラス

スクーリング持参と準備

※今までに制作していた水中撮影作品の持参（スチル&ムービーデータおよびプリント）
プリントサイズは問いません。写真データは Jpeg もしくは Tiff データで。
※ご自身の水中カメラを保有していることが必要最小限となります。（コンデジ可）
普段使っている水中ハウジング、中身のカメラ、それに適応した各種メディア（CF, SD など）。
周辺機器として水中ストロボや水中ビデオライトも持参すること。

スクーリングでの撮影実習

水中撮影の受講要件については、最低限バディ潜水が可能なレベルの C カードを保有していること、指導団体を問わず、最終ダイビングから 3 ヶ月以上のブランクがある場合は、リフレッシュダイビングコースやブランクダイバーコースなどを受講したことをログブック等で提示すること。

※自作映像作品（水中以外）の過去作品も同様にお持ちください。
実際の撮影も行いますので、各種メディアにはご自身でご用意ください。（SD, CF カード）
制作した作品を持ち帰りたい場合、コンパクトハードディスクや SSD などコピーできるものも用意すること（コピーは任意）
※海洋実習実施時は、各自のダイビングツアーとは異なります。（ご自身のボートダイブフイーと交通費、宿泊費実費）
※ダイビング用品のレンタルを希望する場合、事前に写真学科合同研究室までサイズ等問い合わせをしてください。

【授業名】 クリエイティブスタジオワーク 担当者：本田晋一

【授業概要】

色々な主題(人物-商品)を実際にスタジオで撮影しライティングと撮影の技術を学びます。

ライティングはライトを使って"光"で彫刻するイメージ。

Photographyの本来の意味は「光 (photo) で描く (graph) 」です。

光を理解することは「光」を意識して世界を見る事であり、自然光で撮影する時にも大いに役立ちます。デスクトップでレイアウトする事で「構図」をじっくり考察でき、普段の撮影にも反映されます。

【授業スケジュール】

●クリエイティブスタジオワーク

大スタジオでストロボ、DedoLight、テザー撮影等のプロ機材や技法を習得する。

1日目: ライティングの基礎理論 テザー (PCとカメラを接続) 撮影

大型のスタジオ用ストロボを使ってみる。

夏の日や曇りの日の「光」を人工的に作ってみる。

光の種類、ライトの性格を学ぶ。

基本形態を使ったライティングの基礎。

2日目: 文房具&キッチン 日常の物をグラフィックに撮影。

あらゆる所に「グラフィックなイメージ」を見出す訓練。

(俯瞰アングルなど) 形や色を絵画のようにレイアウトする。

「普通の物」をライトによってアートオブジェのように見せる。

3日目: 人物撮影

基本的な人物へのライティングを学ぶ。

メイン、トップ、バックなどのライトの効果を確認。

ビューティー広告のような美しく見えるライト。

ホラー映画などのドラマチックなライト。

クリエイティブスタジオワーク で持参するもの

- ・データ保存用のHDDまたはSSD (撮影した画像データを持ち帰るために必要)

SDカードでもOKです。

- ・筆記用具、上履き (スタジオにもあります)
- ・カメラ、ストロボ、iMacなどはこちらで用意します。

クリエイティブネイチャーワーク

担当：竹本宗一郎（ナイトネイチャーカメラマン）

●概要

「天の川の動き」や「花の開花」などのタイムラプス撮影を通じて写真から動画を生み出す概念を理解します。そこからムービー機能を使ったスローモーション撮影や電子ジンバル撮影などの特殊映像、ショートムービー作品の制作方法まで、ネイチャーフィールドで写真と動画両方の撮影機能を搭載したカメラを使いこなす知識とテクニックを学びます。



●準備機材（自分の機材も使ってみたい人は可能な範囲で準備ください）

- ・動画機能を搭載したデジタル一眼カメラ（バッテリー、記録カード、説明書）
- ・標準ズームレンズ（またはそれをカバーする単焦点レンズ）
- ・マクロレンズ（焦点距離は自由）※所有している場合のみ
- ・データ保存用の HDD または SSD ※データを持ち帰りたい場合

●準備物（事前に購入して必ず持参ください）

- ・テキスト：「星景写真からはじめる星空タイムラプスへのステップアップ」
竹本宗一郎著（玄光社） ※書籍版（電子版は不可）
<https://www.genkosha.co.jp/gmook/?p=25064>
- ・筆記用具、上履き

●スクリーングの予定

1日目・・・【特殊撮影タイムラプス】

1. ネイチャー撮影に関する講義
2. 静止画から動画を生み出すネイチャータイムラプス（ワークショップ）
3. 暗室スタジオでのタイムラプス撮影（ワークショップ）
4. 静止画から動画へ（編集作業で作品を仕上げる）

2日目・・・【シネマチックカメラワーク】

1. シネマチックカメラワークに関する講義
2. 撮影基礎（ワークショップ）
3. 学内撮影（アクティブスローモーション）準備→撮影→試写→講評
4. 学内撮影（電子ジンバル）準備→設定→トレーニング→撮影→試写→講評

3日目・・・【ショートフィルム作品】

1. 動画撮影基礎に関する講義
2. ショートフィルム作品の構成を考える
3. 学内撮影（インタビュー&インサート）
4. 編集作業の基本→作品講評

●概要

展示会を計画して実施するまでに行うべき、計画の立案、予算組、作品の制作、仕上げ、展示プラン、告知などについて詳しく解説を行い、受講時に持参した作品をもとに実際の展示空間を想定したプランニングと、広く作品をアピールするためのセルフプロデュースについて学ぶ。

●準備物

- ・作品データ 100 枚以上
- ・データを保存するストレージ (SSD や HDD など)
- ・A4 の写真用紙
- ・筆記用具 ・上履き

●スクーリングの予定

1 日目

作品制作について、写真のセレクトと配置

展示効果について、写真のサイズと仕上げ方法、展示空間

2 日目

告知のためのノウハウ、印刷物と Web の利用

セルフプロデュースについて

実際の展示から学ぶ (大阪市内で参考になる展示がある場合、午後から学外へ)

3 日目

作品展示のシミュレーション

展示プランの発表

持参物

- ・展示計画に利用する作品データ 100 点以上
※展示計画に利用するための、テーマに基づいて撮影した写真データと、候補を含めた画像を JPEG に変換し 100 点以上 HDD や SSD に入れて持参する。
- ・データ保存用の SSD、HDD など
- ・A4 写真用紙 ・筆記用具 ・上履き

フォトアートⅣ

「フォトアートⅣ-1」

第1日

写真研究1 (レクチャー/リサーチ)

- a・ガイダンス；デジタル環境下における写真表現の歴史を概観します
- b・事前課題の検討

第2日

写真研究2 (撮影)

- a・現在写真の動向を分析する<肌理>のレクチャー
- b・「肌理」をキーワードとした撮影を行う

第3日

作品制作 (作品化)

- a・撮影物の作品化を行う
- b・成果物作品の検討と考察

「フォトアートⅣ-2」

第1日

写真研究3 (撮影/レクチャー)

- a・現在写真とデジタルマニピュレート (<合成>を考える)
- b・<合成>をキーワードとした撮影1

第2日

写真研究4 (撮影)

- a・<合成>をキーワードとした撮影2
- b・撮影物の作品化 (デジタルマニピュレート) を行う

第3日

作品制作 (作品化)

- a・撮影物の作品化 (大判出力) を行う
- b・成果物作品の検討と考察

スクーリング時に必要な用品（フォトアートIV-1、IV-2 共通）

- ・撮影機材:カメラシステム（デジタル一眼レフカメラが望ましい）※三脚は大学で貸し出し可能
- ・使用感材（メディア）:使用するデジタルカメラに準ずる記録メディア

デジタル出力プリント用紙

※ IV-Iではエプソンの写真用紙（光沢/絹目調のいずれか）A4サイズ 20枚入を1ケ使用します。

※ IV-2での使用用紙は、IV-Iの終了後に決定しますので事前のご準備は必要ありません。

- ・筆記用具
- ・交通費（※学外に出での撮影はありません）
- ・その他 制作に必要な実費

※撮影及び編集に関して、ノートパソコンを持参可能な方は持参してきて頂いてもかまいません。

※日中の屋外撮影があります。夏期、冬期とも熱中症対策や防寒対策を事前に準備しておいてください。

テクニカルフォト(表現)

テクニカルフォトIV-1

森川先生

ここではデジタルファインプリントの出力方法とその仕上げまでに至るまでの工程を検証します。

1 日目

- ・露出補正の実際
- ・構図法とは
- ・被写界深度、画角、遠近感のコントロール
- ・RAW データの取り扱い①
- ・ホワイトバランス(カスタム)
- ・ノイズレベル(ISO 感度)チェック

2 日目

- ・終日 Photoshop による作業
- ・RAW データの取り扱い②
- ・レンズプロファイルの取り扱い

3 日目

大阪市内美術館、ギャラリー訪問

写真や絵画などの作品の展示取り扱いについて調査し各自の作品展示プランを考察する

持参物

- ・撮影機材一式 (普段、主に常用するカメラおよびレンズ、重装備は不要)
- ・制作進行中のテーマ、シリーズの撮影データ(200~300 枚以上)RAW データがあれば持参のこと
- ・インクジェット用紙(サンプルプリント用、高品位用紙でなくてもよい)
- ・コットン手袋
- ・データバックアップ用デバイス (外付け HDD ドライブ、USB フラッシュメモリ、SD カードなど)
- ・交通費、施設入場料(1,500 円程度)
- ・文房具
- ・上履き

1 日目

- ・撮影データのチェックおよび選択
- ・データ加工修正
- ・終日 Photoshop による作業

2 日目

- ・高品位アート用紙への印刷とプリンタープロファイルの設定
- ・プリントチェック
- ・終日 Photoshop による作業

3 日目

- ・最終出力
- ・ブックマット制作
- ・仕上げ

持参物

- ・制作進行中のテーマ、シリーズの撮影データ(200~300枚以上)RAWデータもあれば持参のこと
- ・高品位インクジェット用紙(高品位アート用紙少なくとも2種類を持参)
「Hahnemühle」「PCM TAKEO」「Awagami」「PICTRAN」「PICTORICO」「ILFORD」など多種が入手可能です。
- ・マットボード(10×12インチ)8枚(金丸真、国産オリジナルマットボード2mmを購入のこと、色は自由)

「金丸真：http://www.kanamarushin.co.jp/photomat/mat_color/」

※オンラインショップではこのサイズの表記がありませんが店舗では取り扱っています。

オーダーを電話又は、メールで受付けています。

芸大通信教育の授業で使用する旨を伝えてください。

大阪本社

〒537-0024 大阪府大阪市東成区東小橋 3-12-16

tel.06-6971-2777 / fax.06-6971-2171

メール：pro27@kanamarushin.co.jp

東京営業所

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 1-13-11

tel.03-5615-1888 / fax.03-5615-1919

メール：mat@kanamarushin.co.jp

- ・文房具
- ・コットン手袋
- ・データバックアップ用デバイス (外付け HDD ドライブ、USB フラッシュメモリ、SD カードなど)
- ・上履き

卒業制作

卒業制作 1

・持参物

- 1、写真(サイズは問わない。プリントで持参すること。データは不可。) 入学後に撮影したもの(なるべく多く)
- 2、自分が興味ある写真集(無ければ持参しなくともよい)一冊以上。

・授業内容

- 1、教材やディスカッションから、各自の卒業制作のテーマ発見へ。
- 2、テーマについての課題(問題点)と可能性を考えます。

卒業制作 2

・持参物

- 1、写真作品 卒業制作 1 で決定したテーマに沿った作品(プリント) (卒業制作 1 で各自のテーマに応じて指示します)
- 2、卒業制作計画書(800 字程度、形態は自由)

・授業内容

- 1、作品を軸にディスカッションをして方向性を決定します。
- 2、作品の完成度を上げるための課題を発見します。

卒業制作 3

・持参物

- 1、写真作品 卒業制作 2 で指導を受けた作品とその続編となる作品。(A4 または六切(8×10)程度のプリントで持参して下さい) ※おおよその点数は、卒業制作 2 で指示します。

・授業内容

- 1、作品を軸にディスカッションをして完成への可能性を発見します。
- 2、作品の完成度を上げるための問題点とその解決策を発見します。

卒業制作 4

・持参物 卒業制作(形態や点数などについては授業で詳しく伝えます)

・授業内容 卒業制作の最終指導、評価など

- 質問は、通信教育部事務局へアクティブメールで送ってください。必ず、氏名、学籍番号、を書き添えてください。